

## i. 高額美術品のマネーロンダリング(以下MLと略します)への利用について

### MLに利用されやすい高額美術品の特徴

高価な美術品は、公的に売買される場合と、個人的に売買される場合があり、どちらの売買も犯罪者が匿名で取引に参加できる仕組みになっています。

このような透明性の欠如は美術品は、その所有権や取引を監視することが難しく、以下のような「見えない資産」となってしまいます。

金融機関が保有せず、関連する取引も記録されない取引においてオークションハウスやギャラリーの場合、売り手、買い手、またはその両方が「個人のコレクション」としてリストされ、相手方や潜在的な仲介業者に開示されないことは珍しくありません。

特定の芸術作品を購入、保持、または販売し、支払いを受け入れて送金するためのシェルカンパニーまたは第三者のアートディーラーやアドバイザーを利用するなどの複雑な所有権構造は、プライベートな取引において、さらなる匿名性を提供することができます。

シェルカンパニーは、資金や資産の譲渡と保有のための金融機関として使用できるため、最終的な所有者は、制裁リスクをスクリーニングしたり、取引の背後にある当事者に法執行機関に警告したりする可能性のあるディーラーに名前を明かすことを避けることができます。

また、取引の背後にある最終的な所有者が、代理人を通じて行動する場合や、売り手と買い手が誰かのために行動していることを、売り手と買い手に知らせることもあれば、知らせないこともあります。

これは、当事者が匿名で売買を行うための別の方法を提供するもので、開示することなく取引の手配をする側には、当事者や資金の出所に関するいかなる情報も提供されないということです。

一般市場や個人取引で購入されたものであっても、価値の高い美術品は移動が多く、国際的な価値移転の方法としては理想的です。

美術品の大きさは様々ですが、価値の高い美術品の中には、車やプライベートジェット機で簡単に輸送できるものもあります。

国境で検査されたとしても税関職員は、インボイスに記載された金額を疑わないことがあります。

国内および国際的な法執行機関の職員は、価値の高いものを識別するための専門知識や、訓練を受けていないことが多く、そのため美術品の精密な検査が行われられない可能性があります。

美術品の価値は主観的なものであるため、個々の美術品の価格は自由に上げ下げすることができます。

マネーロンダリング犯は、ペーパーカンパニーやその他の第三者機関を通じたストロー入札を利用することで作品の価格を意図的につり上げたり、下げたりすることができ、違法なやり取りを簡単に隠蔽することができるというわけです。

また、価格が主観的であるため、価値の操作によって、税務上の資産を寄贈する側に税負担させることができます。

高額な美術品の価値が下がったとしても、その作品を元の不正収益とは関係のないお金で損をして売る。

また、FTZ(自由貿易地域)や美術品保管施設が悪用されたり、ベストプラクティスが守られていない場合、国境を越えた価値移転が行われることがあります。

概念的には、美術品が美術品保管施設や他のFTZに保管されると、国境を越えた価値移転が可能になります。

作品の所有者は、ゾーン外で金融取引を行うことができます。

取引当事者と美術品保管施設の管理者以外の法執行機関や誰にも知られることなく、取引の裏側として資産所有権の移転を利用することができるのです。

このメカニズムを使用すると、物理的な資産を輸送することなく、国境を越えて価値をたやすく移動できます。

これらのゾーンに保管されている品物の所有権は、他の司法管轄区での価値移転と連携して、2つの取引当事者間で移転させることができます。

これにより、美術品保管施設の外で、保管されている美術品の譲渡・管理を通じて不正資金をロンダリングすることが可能になります。

米財務省 報告書2022年版『Study of the Facilitation of Money Laundering and Terror Finance Through the Trade in Works of Art』より翻訳・引用しました。